

いのちを守る防災情報

Disaster prevention information to save lives.

土砂災害の被害を少なくするためには行政と住民の相互の協力が必要です。行政からはさまざまな手段で防災情報が提供されています。これら防災情報の収集につとめ、家の周辺の危険箇所や避難路、避難場所を確認するなどの「日頃の備え」、また雨量情報などに注意をはらい異変を察知したら「早めの避難」をこころがけましょう。

日頃の備え

- 日頃から土砂災害に関する防災情報に注意をはらいましょう。
- 危険な箇所を調べておきましょう。
- 避難路・避難場所・避難方法などについて確認しておきましょう。
- 高齢者の方などに日頃から声をかけあい、いっしょに避難しましょう。

危険な箇所を調べておこう

危険箇所図は最寄りの土木事務所、市町村役場等で見ることができます。日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。



ハザードマップ等で確認

インターネットを利用しよう

国土交通省や都道府県の防災情報のホームページを確認しておきましょう。

※国土交通省「防災情報提供センター」のホームページ <http://www.bosaijoho.go.jp/> **防災情報** で検索
関係省庁、都道府県の防災情報HPにもリンクしています。



避難の道順を決めておく

避難する道に危険な場所がないか、日頃から調べておきましょう。



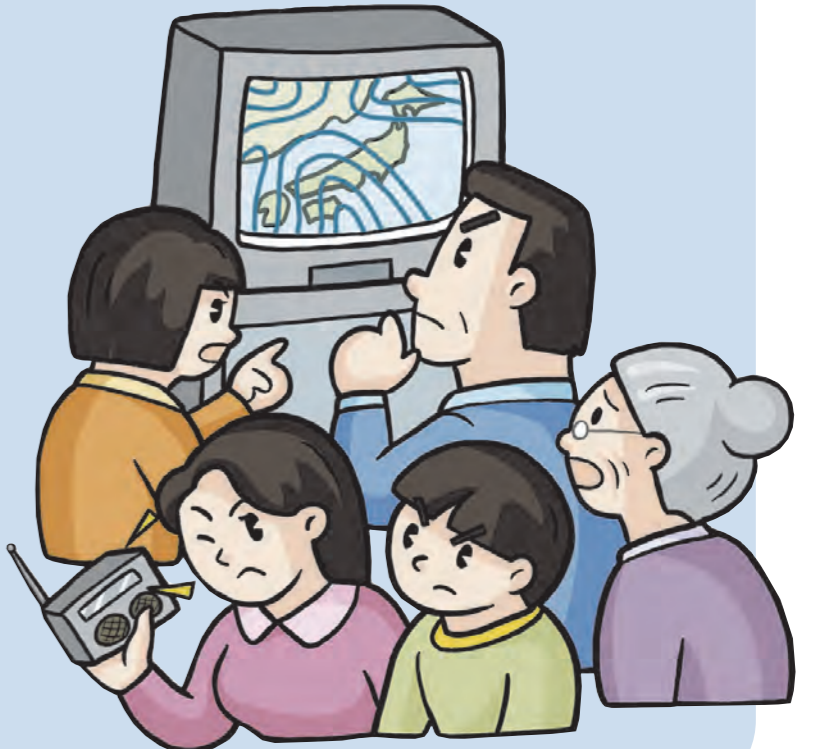
※イメージ

情報に気を配る

気象予報や土砂災害警戒情報に気をつけましょう。

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生危険性が高まったときに、市町村長が住民への避難勧告等を適切に行えるように支援するとともに、住民自らの避難の判断にも参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する情報です。2008年3月から全都道府県において発表されるようになりました。



避難の準備をしよう

日頃から非常持ち出し袋を用意しておきましょう。携帯電話があれば持っていきましょう。



雨に注意しよう

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。



1時間20～29ミリの雨を気象庁の予報用語では「強い雨」と表現し、人の受けるイメージは「どしゃ降り」としています。